

グリーン経営認証取得の成果の紹介

認証取得後1年目の定期審査時のアンケート項目「特に成果のあった取組」について寄せられた皆様の声をご紹介します。
(2023.9~2023.10)

【バス事業】

内容
乗務員が運転中にエコドライブを意識すること、車庫内でのアイドリング時間を10分以内に設定したことにより、無駄な燃料の消費を抑えることができています。 また、軽微な車両異常を乗務員が申告すること、車両の点検・整備を定期的に行うことで車両故障を最小限に防ぐことができています。 事務所内で数カ所に分別回収ボックスを設置、空調機器を適正温度に設定、適切な廃棄物の処理を徹底し、環境保全の取組みを励行している。 環境保全の観点からの点検・整備に従事することで、車両の故障件数が減少している。

【タクシー事業】

内容
社内に掲示している燃費ランキング表などを見て、乗務員同士で燃費に関する会話をしている状況を見ると燃費に対する意識が向上していると感じられる。 また、社内で年1回トランクの搭載物を確認する取組みを行っているが、最近ではトランク内の整理整頓がきちんとできている。

【港湾運送事業】

内容
当社がグリーン経営認証を受けてることを定期的に社内発信することにより、環境意識の向上に一役買っているのではないかと思います。

【旅客船事業】

内容
・廃棄物集計表により、ゴミの量を数値化できるようになり、削減目標を明確にする事が出来るようになりました。 ・夏季、室内温度28℃以上、社員の軽装勤務の奨励により、CO2削減につながったと思います。

【内航海運業】

内容
燃料消費量削減についての取組みを継続している。 資料及び情報を各船と事務所で共有することによって、乗組員の燃費向上への意識も高まり良好な状態が続いている。 所属運航船舶の減速運転による燃料消費原単位の低下

【トラック事業】

内容
月一回の個人面談で、「エコ月」と称し、気を付けていることがあるか個々に聞いてから、実施していない者には何かできることをしてみるよう促します。次の月に何か行動にうつしたか結果と感想を聞いています。
何気ない会話かもしれないけれど、ふと「こうしたら燃費よくなるんじゃないか」など考えて運転する人が増えていて、法定速度を守り、急発進急加速をしない運転が、ある意味言い方がおかしいがカッコいい、そんな風潮になりつつあるのがほほえましいです。
従業員の車輛に関して点検及び整備などを自発的に実施するようになった。
認証取得での環境に配慮した事業活動の荷主様の理解及び車両への認証マーク貼付から対外的なアピールが出来ている事。
エンジンオイル交換およびエンジンオイルフィルタ交換について、前回交換距離数と次回交換距離数を記載したシールを車両に貼り付けており見える化している事で、燃費が悪くなるのを防ぐ効果があった。
定期的な点検整備で、故障箇所の早めの発見により大事に至らなかった。
デジタルタコグラフの導入以来、燃費の向上については、良い結果を伴っており満足している。さらにこの取り組みを進める上で重要なこととらえて従業員の考え方、ものの見方を少しでも変えて行きたいと思い認証制度を利用し始めて2年以上が経過し、車輛事故などの減少、交通事故の減少とその効果が着実に見え始めています。
この状況を維持しリーダー層の育成にもその効果が及んで行くことを今後の課題として活かして行きたい。
①の燃費の向上⑤の職場の活性化や従業員の士気向上が前回と同様になりますが原油高騰が続き、社内の半期にて改善率の高い乗務員に対し表彰制度を導入していますが、ミーティング時、点呼時には乗務員の燃費に対する意識が強くなりさらなる燃費向上が予測される。
継続取り組み事項 ※高速走行時はオートクルーズにて走行する為、坂道の多い中央道を走行せずに平坦な東名高速を走行する等 ※夏場の車内待機はせずに、ドライバー控室を使用する事。
従業員の環境リスクに対する意識が定着してきていると感じています。
燃料単価が高騰していることもあり、特にエコドライブに関して意識を高く持ち、各車両の燃費等を意識するドライバーが増えていきます。
審査にあたり、必要な情報を集めて形にすることや、方向性を決めるという事が、リーダー層の育成に役になっていると思います。特に、情報を整理するうえで、実態を詳しく知る事が、より深くトラックの特性などを理解する一助になっていると思います。
以前よりゴミの分別をしてくれる方が増えた。
令和5年2月に自動車安全運転センターから初の表彰を受けました。
グリーン経営を2010年12月から取り組み続けた結果、ドライバーへの安全運転教育・燃費向上のための運転方法の改善等が明確になり、エコドライブを実施し自然と無事故無違反に繋がった。
点検基準書を制定したことによりドライバー自身が車のことを気にするようになり、出先での車両トラブルは減少している。
ゆっくり発車、ゆっくり停止が長年の参加で身に付いている為、交差点等出会い頭の事故がなくなった。
認証を取得し、更新維持していくに当たって、ドライバー、整備管理者、運行管理者、それぞれが少しずつ意識が高まり、出来る範囲で行動し、結果、中長期的な時間をかけて定着して来たように思います。
環境に配慮、社会貢献、というミッション～認証取得、目標値達成というビジョン～各取組、活動というバリューのような一連の流れが定着しているので総合的に大きな成果だと思っています。
エコドライブ活動を数字で明確に目標を立て取り組み、交通事故14年無事故で継続しています。
また、東京都輸送評価制度でも三つ星評価継続中です。
ここ数年では首記の活動で車間距離をとる事で、運転席全面ガラスの飛び石がゼロに近い数字です。
以前は飛び石で車両60%近くガラス交換やガラス修理していました。
申請書類の作成を人材育成の材料として、係長や主任と一緒に行ったところ、燃費削減や整備点検への取組意識が向上した。
事務所内のカーテンが古くなってきたので遮光カーテンに取り換えました。熱効率がアップしエネルギー消費が下がったように思います。
不具合車両の早期対応にて運行への最小限の影響
管理者による省エネ走行講習を受講し、帰社後機会を見ての同乗指導を実施。

内容

エンジンオイル、オイルエレメント、エアエレメントの定期交換や定期清掃を行うことにより車輛の燃費の向上や、故障などが年々実績としてあらわれている。

また、定期交換の意識が乗務員にも根付いてきた為、いい傾向になってきた。

1人1人のエコへの取り組みや意識が高まり、燃費が改善されたり、事故の減少がみられました。

エコドライブの実績を社内に掲示する際、目標値と比較したCO2の削減量を植林（あるいは伐採）に換算して表記することで乗務員の興味を引き理解しやすくした。

毎日の日常点検でタイヤのチェックを行い、運転中のバースト件数が減少しました。

車両事故などが減少した。こまめに車両に目がいくようになり、異変に早く気付けるようになった。

エコドライブ及び安全運転を重点におき、车速遵守（一般道60km未満、高速道80km未満）を必達目標において、社内運動を実施してきた。班活動（小集団活動）における班長を中心に各乗務員が日々の達成状況を社内に掲示し、達成状況が低い乗務員については、管理者及び班長から指導することで遵守することを周知徹底した。結果、全社的に環境への意識向上並びに安全運転の向上に結びついている。

毎年、少しでも改善できればと安全会議等で周知し頑張っております。

事業所から一方的に伝えるのではなく、乗務員同士で話し合い確認し合い、その結果、燃料消費や今まで簡単に考えていた日常点検も、少しずつですが変わってきているように感じております。

【効果が得られたもの；2位】表1の②⇒車両・点検整備の実施体制を確立し、車両状態及び環境配慮に応じた適切な点検整備を実施することで、効果が出る事を理解し取り組んでいる。【効果が得られたもの；3位】表1の⑩⇒乗務員個々に日々の運行燃費を意識させることにより、燃費向上に繋がるだけではなく、環境配慮に良い影響が出る事を教育し認識させることが出来ている。

車両における燃費管理について

ドライバーごとの燃費を毎月掲示することにより、自分の燃費を意識し、燃費向上やエコドライブをさらに意識して運転するようになった。

毎年、年2回（8月と1月）に全社員対象に安全研修会を開催する中で、ディーラーによるエコドライブ研修を実施し、エコ運転に対する運転手の意識向上に役立てていましたが、コロナ禍で開催を断念しています。

代案として、業態のグループ別に毎月月末にエコドライブと交通安全についてのミーティングを実施して、エコドライブの啓蒙活動を行っています。

整備管理業務に対しドライバーの意識が向上している。オイル交換の時期や、エアフィルターの清掃時期、タイヤ空気圧の状態など計画的に実施することで、ドライバー自身が車両の状態を常に把握し、異常等の報告が迅速に上がるようになっている。

燃費の実績を社内でオープンにする（個車毎）により、ドライバーの燃費に対する意識が高まった。エコドライブを実践している。

エコドライブへの取り組みで低燃費効果だけでなく、法定速度を守って安全運転につながり、事故もなくなった。

車両管理者の育成と意識の向上。

燃費の目標を設定することにより運転手の意識が変わり運転技術が向上した。

特に具体的な取り組みはありませんが、全体的に認証基準に対する意識が定着しています。

1. 燃費への意識が定着している。
2. 車両の点検整備が確実に実施できている。

グリーン経営認証事業所を維持する事が燃費の向上しコストダウン及び交通事故減少へと繋がりました。

グリーン経営認証を取得して、燃費向上やエコ製品の購入など社員一人ひとりが環境への関心をもてるようになった。

燃費の向上に取り組む事で、安全運転への意識に繋がったこと。

毎月の定例会議などを通じてグリーン経営の取り組みについて意識付けに努め、結果として車両不具合の早期発見及び責任者への報告などに繋がっている。

安全会議での数値による具体的な教育、ドライバーの意識向上そして、効果

運転手の燃費への意識が向上した。

【倉庫業】

内容
<p>物流廃材ストレッチフィルムの廃プラ処理について、再資源化プラスチック製造業者の開発し、売却先の再生ビニール袋を購入、使用することで、循環型リサイクルの取組を実現継続しています。</p> <p>定期的に環境啓蒙グッズ、ポスター、情報誌を配布いただき、環境教育に大変役立っています。</p>
<p>節電の意識については最近の電気料金高騰と相まって向上しています。又、業務効果化は喫緊の課題でありグリーン経営をツールとし活用したい。</p>
<p>日々の節電意識の取組みは、各事業所に浸透してきていると感じます。</p> <p>2019年度から2021年度の期間中においては、コロナ禍による貨物取扱量や時間外作業の減少により、全体で電気使用量が減少となりました。2022年度は、例年の夏場の猛暑による電気使用量の増加により、2021年度比で増加となりましたが、全事業所のうち2事業所においては、節電意識の取組みがなされた事により、前年比で削減することが出来ました。</p>
<p>〔活動内容についての簡単な説明〕</p> <p>グリーン経営の活動については、日常的に出来ることを皆で取り組むようにしております。</p> <ul style="list-style-type: none">・本社は借事務所倉庫が無いので、営業所が活動の中心となっております。・営業所の所員全員がグリーン経営の活動に対して理解出来る様に、そして環境に対する意識が向上する様に、環境情報等の伝達をして意思の疎通を図っております。・今後につきましても、従業員に対する環境意識の向上を図りながら、グリーン経営の活動に取り組んでいきたいと思っております。
<p>電気・燃料使用量原単位の目標及び実績を毎期記帳して可視化することにより、現在の取組み状況や過去との比較を容易に行えるようになった。</p>
<p>原単位の目標を設定することで、電気・燃料使用量の削減への意識が向上した。</p> <ul style="list-style-type: none">・こまめな消灯を心掛けるようになった。・フォークリフトのスピード抑制や丁寧な操作が目立つようになった。 <p>廃棄物の分別が適正になった。</p>